

台湾ではじめての植物園

日本に統治されていた時、1896年に日本人が「台北苗圃」および母樹園を創建し、1921年に「台北植物園」と正式に名前を更新し、台湾ではじめての植物園となりました。百年以上の歴史を持つ、敷地面積が約8.2ヘクタールの台北植物園には、裸子植物区、シダ植物区、植物分類園区、民族植物区、蓮池区、アーク温室などのそれぞれテーマ展示区があります。集めた植物の種類は2,000種を超え、台湾における植物研究および教育の重要な場所となりました。

台北植物園の周辺は旧台北湖の遺跡です。古い湖が陸地化したあと、今から約4,500年前に、植物園のあたりで人類の活動が始まりました。そのため、植物園の地下から各時期の文化遺産が発見され、ここは台湾で重要な考古遺跡となりました。

植物園には二箇所の市指定の旧跡があります。一つは清朝の末期に建立された「欽差行臺」という閩南(ピン南)式の建物です。もともと、現在台北市中山堂のある場所に建っていましたが、1933年に植物園に移築されました。もう一つは、1924年に建立された「腊葉館」です。ここは台湾ではじめての植物標本館で、日本統治時代から集めていた植物標本があり、園内で植物園の歴史を感じさせる老木が時代の面影を偲ばせています。

植物園は一般の公園と違います

植物園には、植物に関する記録文献を収集し、科学研究、保育、展示を通して、教育を行う施設という役割があります。

植物園の役割：

- ◆ 系統的な科学調査の研究と記録を通して、整理された植物保育情報を提供します。
- ◆ 幅広い植物の収集ならびに栽培を通して、植物の保育を行っていきます。
- ◆ 躍動感のある展示や啓発性のある教育を通して、一般の方の保育知識を強化させます。
- ◆ 国際的な植物園ネットワークを通して、グローバルな植物多様性の保育に取り組んでいます。

植物園自然保護国際機構 (Botanic Gardens Conservation International, BGCI) は1987年に設立され、現在では118カ国の700を超える植物園や植物研究機関が会員となっています。世界で最も大きな植物多様性の保育組織であり、国際三大エコ組織の一つでもあります。地球上の植物多様性の保育に取り組んでいて、地球上に存在する植物の1/3に対して、絶滅の危惧に脅かされないように務めています。台北植物園は台湾で初めての「植物園自然保護国際機構」に加盟するの植物園であり、各国の植物園と積極的に学術的な交流を行っています。



開園時間

毎日午前六時より夜八時まで。年中無休。

アクセス

台北植物園には駐車場がありません。道端にも駐車できる場所が少ないですので、公共交通機関をご利用ください。

MRTに乗られる方

捷運小南門站 (MRT小南門駅) :
3番出口。博愛路 (通) の入口から入る。

バスで行かれる方

(注: 下記にある中国語のそれぞれの停留所名と路線名を対照しながらご利用ください)

- 1 植物園站: 1・242・568・624・907・藍28
- 2 三元街口: 204・630
- 3 植物園站: 1・204・242・568・624・630・907



発行者 | 曾彦學
編集執筆 | 蕭育志、林謙佑、吳維修、董景生
翻訳者 | 林玉英
発行機関 | 農業部林業試験所
住所 | 台北市中正區南海路53號
電話番号 | (02)23039978
植物園のホームページ | tpbg.tfri.gov.tw



台北植物園
Taipei Botanical Garden

2024.05 出版

台北植物園
Taipei Botanical Garden

林業試験所パンフレット第170号



- ← 入口
- 案内所
- 主園路
- トイレ
- バリアフリー歩道
- 水飲み場
- 東屋 (休憩所)